

## 適正施設ガイドライン

【カリフォルニアアシカ *Zalophus californianus*】

2025年2月

公益社団法人日本動物園水族館協会

## 種の概況

和名：カリフォルニアアシカ

学名：*Zalophus californianus*

英名：CALIFORNIA SEA LION

分布：北アメリカ西海岸沿岸（アラスカ南東部からメキシコ中央部）

形態：体は水中を泳ぐのに適した紡錘形。毛色は雄は黒褐色や暗褐色で、雌はやや明るく黄褐色をしている。尾は短く、後脚の間に隠れるようになっている。体長は雄は2.2～2.4m、雌は1.8～2.0m程度。雄の方が体が大きく、成長した雄は額がこぶのように盛り上がる。

生態：繁殖地はカリフォルニア州南部からカリフォルニア半島にかけてで、繁殖は5～8月にかけて見られる。一夫多妻で、この時期の雄は5～20頭の雌とハーレムを形成する。妊娠期間は約1年、ふつうは1産1子を出産する。主に魚類を食べるが、イカなどの軟体動物や時には貝類なども食べる。地上では前脚と後脚で体を支えて歩く。水中では前脚を巧みに使って自由に泳ぎまわり、潜水能力にも優れている。

### 1 飼育環境

カリフォルニアアシカは日本の動物園、水族館でも一般的に飼育されている種だが、各園での飼育環境に応じて、陸上面積・プール部（水面面積、水深）・温度・湿度・水温の管理を適切に行うように努めなければならない。

#### 1-1 施設の面積・容積

アメリカ合衆国農務省動物福祉規則(Animal Welfare Regulations:以下アメリカ飼育基準)では屋内屋外問わず飼育環境の基準は下記のとおりである。また、カリフォルニアアシカに限らず鳍脚類は、雌雄での成獣の大きさに差があることから、雌雄それぞれに基準を設けている。

基準となる値は、「MHD（水槽最低水平距離）」・「水深」・「プール容積」・「陸上面積」・「水面面積」の5項目である。

性別	頭数	成獣平均体長 (m)	MHD (m)	最小水槽水深 (m)	最小水槽容量 (m <sup>3</sup> )	最小陸上面積 (m <sup>2</sup> )	最小水面面積 (m <sup>2</sup> )
♂	1	2.24	3.36	1.12	8.429568	7.5264	7.5264
♀	1	1.75	2.625	0.91	3.901625	4.2875	4.2875

※以後の記載での数値は、アメリカ飼育基準に則った数値であり、今後、国内での飼育基準を検討していく上での参考としていただきたい。

#### 1-2 気温・水温

##### 1) 屋外

一般的に、カリフォルニアアシカは比較的気温の変動には強く、屋外温度が30℃を超えてくるような場合でも耐えることができる。しかし、このような条件下では必ずプールの設置もしくはシャワー設備が必要である。また、生息地に合わせた気温変動もつけた方が良い。水温については18℃～23℃に保つことが理想であるが、気温同様に変動をつけることで体内のバイオリズムの正常化を推進する。また気温35℃以上の条件下に長時間おいておくことは避けなければならない。最低気温に関しては、雨や雪、みぞれ、風冷えなどを考慮に入れなくてはならない。一部加温できる場所があれば尚良い。

##### 2) 屋内

室内温度は、15℃～23℃に保つことが理想である。室内であっても35℃以上になることは避けるべきである。また、屋内の換気も重要であり、定期的に完全換気を行うことが好ましい。特に、空調を使用して屋内を一定の温度に維持している場合は、こまめに完

全換気を行うべきである。プールの水温については上記と同様である。屋内に常設のプールがない場合は、仮設でもプールを設置すべきである。できなければシャワー装置の設置を義務づける。気温・水温の変動は屋外と同様である。

### 1-3 照明

カリフォルニアアシカは、天候や気温、その他の条件で屋外に出せない場合を除いて、屋外の自然光の下飼育されることが多い。しかし、海生哺乳類なので、一日を通して日陰を必要とする。暖地にある動物園では、全て屋外展示に十分な日陰がなくてはならない。特にカリフォルニアアシカは十分な日陰がないと、目や皮膚に影響・障害を受けることもある。

長時間屋内で飼育する場合には、再び屋外に出すまでの間、天窓や蛍光灯、白熱灯を使用するとよい。カリフォルニアアシカには特別な照明は必要ではないが、換毛や繁殖、季節的な体重の変化を正常に行うためには日長のコントロールをする方が望ましい。

屋内飼育の場合、屋外のような日照時間の年変化が乏しく、体内のバイオリズム、繁殖や換毛等のホルモン分泌に異常が生じることが考えられる。可能であれば自然光を取り入れる工夫をすること、また生息地の環境を参考に日照時間のコントロールをするのが望ましい。また、飼育動物に過度の照明を浴びせることが無いように設計するべきである。

### 1-4 音・振動

一般的にカリフォルニアアシカは環境内の聴覚刺激に適応能力があるとされているが、正の刺激に関連づけしつづ、新しい音や振動に時間をかけてさらしていくことで慣らすことができる。しかし、新しい音や振動の原因となるもの（発電機や濾過機、工事の騒音、イベント時の音楽など）やさまざまな環境の変化は、聴覚刺激による慢性あるいは急性のストレスの原因となる場合もあるので、飼育管理上特別に気を付けたい時期（動物の搬出入時、出産及び育児中、病気の時など）にはそれらを避けるか、あるいは最小限にとどめるべきである。

個体によっては、音や振動（特に草刈り機）に敏感に反応することも考えられるため、可能な限り担当者が立ち会った中で作業をするべきである。

### 1-5 面積・容積

展示場設計の際にはカリフォルニアアシカの身体的、社会的、行動学的そして心理的欲求を満たすように注意深く検討しなくてはならない。可能な限り、野生の生息地を模した展示場を設計し、カリフォルニアアシカの社会的、行動学的欲求に合った個体数で展示しなくてはならない。

#### 1) 屋外

運動と繁殖行動のために十分な広さが必要である。展示場は1頭あたり最低7.5m<sup>2</sup>の陸上と8.4m<sup>3</sup>のプールが必要である。また、プールの水面面積および水槽最低水平距離(MHD)は屋内での基準値と同様もしくはそれ以上が望ましい。

展示場、寝室、病院、検疫、隔離室を含め、カリフォルニアアシカ収容施設の設計や陸上面積、水面面積、プールの容積を検討する際には、獣舎の大きさや構造と、カリフォルニアアシカの全面的な健康と福祉に関するあらゆる事項に対し、注意深い配慮が必要である。

#### 2) 屋内

屋内ではそれぞれの陸上部の大きさは少なくとも雄1頭の場合は7.5m<sup>2</sup>、雌1頭の場合は4.2m<sup>2</sup>とする。プールの水面面積は、陸上部と同等の大きさを必要とする。また、プールの容積は、雄1頭の場合は8.4m<sup>3</sup>、雌1頭の場合は3.9m<sup>3</sup>とする。プール内での水槽最低水平距離(MHD)は雄1頭の場合は3.3m、雌1頭の場合は2.6mとする。飼育担当者に危険が及ばない形で動物を移動、監視できるようにする。出産、治療、あるいは行動

上の問題がある時などに動物を分けられるようにする。屋内施設には母親個体と仔1頭が収容できるようにする（2つの部屋の間の仕切りをなくして、大きな部屋として使用してもよい）。もし、屋内施設がこの面積より広い場合は、攻撃的な個体が同居するほかの個体を追い込む可能性のある死角や袋小路ができないように注意する。

## 1-6 構造・設備

展示場及び収容施設の設計の際には、全てのエリアでカリフォルニアアシカの意図しない脱出の恐れがないように、注意深く検討しなくてはならない。扉、柵、施錠構造ならびに展示場の壁等の寸法と構造にはとりわけ注意しなくてはならない。

### 1) 屋外

#### ① 地面

屋外展示場の表面はカリフォルニアアシカの体を傷つけないために、床の表面を荒い状態（例：荒めの刷毛引き仕上げ）にしてはいけない。カリフォルニアアシカをコンクリートの上で年中飼育してはならない。

#### ② プール

頻繁に遊泳する種のためプールは必須である。プールの入り口はカリフォルニアアシカの体の幅よりも大きいものとし、表面は滑りづらい構造にし、ゆるやかな傾斜をつけることが望ましい。カリフォルニアアシカが完全に体を水中に沈めるには、深さは最低でも0.9m必要である（アメリカ飼育基準に準ずる）。

#### ③ 日陰及びシェルター

強い日差しは目や皮膚に悪影響を与えるため、屋外展示場には適切な日陰を用意しなければならない。日陰は展示場の植栽や、獣舎及び獣舎の屋根等で確保もしくは別途用意するなどし、最低でも展示上に飼育されている個体すべてが日陰に入れるようにすべきである。夏季の日差しだけでなく、春や秋にも光線過敏症や熱中症が発生することがあるため、注意が必要である。

### 2) 屋内

#### ① 壁、床材

屋内施設の壁は少なくとも2mの高さで、鉄製あるいはコンクリートの硬い材質が10cm以下の間隔の垂直鉄柵とする。水平柵はカリフォルニアアシカが登ってしまうので適さない。床は蓋のついている排水溝に向かってわずかに傾斜をつける。冷涼、寒冷地の動物園では床暖房を設置するか保温板を用いて保温する。カリフォルニアアシカの体を傷つけないために、床の表面を荒い状態（例：荒めの刷毛引き仕上げ）にしてはいけない。コンクリート上で長期間飼育すると、皮膚の障害などを引き起こすことがある。

#### ② プール

カリフォルニアアシカは頻繁に遊泳する。またプールに排泄することもあるため、換水が行いやすいもしくは循環式のプールが良い。プールがない場合は、大型の水入れ、水桶を設置して遊泳できるようにする。もし、カリフォルニアアシカを長期間屋内に収容し、屋外のプールが使用できない場合は、必ずプールもしくは水場を確保する。カリフォルニアアシカが完全に体を水中に沈めるには、深さ0.9m（アメリカ飼育基準）程度あれば十分であるがより深い方が環境としては良い。

参考文献

United States Department of Agriculture (2020) : Animal Welfare Act and Animal Welfare Regulations.

[https://www.aphis.usda.gov/animal\\_welfare/downloads/AC\\_BlueBook\\_AWA\\_508\\_comp\\_version.pdf](https://www.aphis.usda.gov/animal_welfare/downloads/AC_BlueBook_AWA_508_comp_version.pdf)